

本研修もついに最終日を迎えた。初日、着陸に向けて高度を下げる飛行機から初めて台湾の街の灯りを見た時が、はるか昔のように感じられる。

I-house とよばれる政治大学の国際学生寮とも今日でお別れ。帰りの飛行機で聞いた話では、滞在中寮に戻ることを「家に帰る」などと言うなど、もはや我が家扱いしていた者もいたとか。それくらい快適な寮生活であった。

寮での朝食は毎朝 7:30 に各部屋に届けられる。配膳する係の方は返事がないと執拗にノックを繰り返してくださるので、否が応でもこの時間には目を覚ますことになっている。しかしこの日だけは溜まりに溜まった疲労のためか、その直後、二人そろって眠りに落ちてしまった部屋があったという。これも後々折に触れて振り返るいい思い出になることであろう。

当初入りきれない荷物を郵送できないかという申し出もあり、やや心配された荷造りであったが、皆しっかりとスーツケースと手荷物に収めることができ、来る時よりもかなり重量感を増したスーツケースとともにドミトリーを後にする。バスへ向かう途中にある小学校には朝から長蛇の列ができています。今日は日本における統一地方選のような選挙の日当たるようで、私たちが滞在した期間中、街中至る所に候補者のポスターや看板があふれていて選挙ムード一色であった（日本では絶対落選するだろうと思われる忍者のコスプレ姿を惜しげもなく披露しているおばちゃん候補者もいた）。その結果を知らずに帰るのだと思うとそれもまた寂しい気持ちになる。

政治大学のコーディネーターの方が最後まで見送ってくれた。約 10 日間、台北における研修のベースキャンプとなった地を後にすると、いよいよ台湾を去るんだという実感がわいてくる。

空港までは小一時間のドライブ。積もる話や終わらない荷造り、遊び足りないゲームやらで睡眠時間を削られたであろう生徒たちの多くはこの間に体力回復に努める。空港に着くとすぐにやってくる緊張の瞬間。重量がオーバーしていると超過料金を徴収されてしまう荷物チェックである。しかし 15 日間をともにした 15 人目のメンバーともいえる通訳の黄さんの計らいもあり、すんなりとチェックインカウンターを通過することに成功。我々のどんなワガママにもいつも笑顔で対応してくれた黄さん。本当にあちこちで出会いに恵まれた 15 日間であった。

出国検査（既に無人化・オートメーション化が進んでいて逆に戸惑ってしまう）を無事にパスした後、しばしの自由時間にめいめい残った台湾ドルを消化。さらに増えた荷物を抱え、花巻行きの直行便へ。気流の関係で帰りは行きよりも 1 時間も早く到着する。とはいえお昼を挟むために、この研修最後の食事として機内食の提供を受ける。初日の機内食で我々に大きな衝撃を与えた八角という調味料との邂逅を覚悟していたものの、出てきたのは非常にマイルドな味付けの海鮮ビーフン。美味しいのだけれどちょっとだけ肩透かしをくらったような気がする。そんなことを話している間にも、飛行機はどんどん岩手、花巻へ向けて進んでいく。見覚えのあるただびろい景色、寒々しい冬の入り口の空。そんな見慣れた光景が目飛び込んでくると、間もなく飛行機は花巻空港の滑走路に滑り込んでいた。

荷物を受け取りロビーに出ると、お迎えに来てくださったご家族の皆様と副校長先生。最後は団長と引率者から一言ご挨拶して、一本締めで研修の一切が終了。皆それぞれにご家族の皆様と土産話に花を咲かせながら三々五々と帰途についていった。

短い言葉で締めるにはあまりの密度の濃い 15 日間だったため、ここでの小括は割愛させていただくが、まずは改めて 13 人のメンバーたち、この研修を陰日向で支えてくださった皆様、そして何より小さいけれどもものすごく懐の深い国台湾、そこで出会った全ての人、出来事に感謝したい。謝謝！

最後の朝食



今日はちょうど選挙の投票日でした



I-house(寮)ともお別れ



いつも素敵な笑顔の黄さん



最後の台湾食



お迎えの皆さんに帰着の報告

